

プロジェクト報告書

2018年度～2021年度
全学的TA教育プログラムの開発及び実施と
大学教員養成プログラム(PFFP)の推進

2022年4月



九州大学
KYUSHU UNIVERSITY



UEII

九州大学教育改革推進本部
Kyushu University Education Innovation Initiative

プロジェクト概要

プロジェクト開始時の
ポンチ絵がこちら
です。

全学的TA教育プログラムの開発及び実施と
大学教員養成プログラム (PFFP)の推進 (2018年度～2021年度)



趣旨・目的

本学の教育力のさらなる向上のためには、優秀な大学院生、学部生等の教育力、指導力を向上させる教育の場の提供、そして、教育を受けた学生をTA等として教育の現場に参加させることによる、教え手の数を増やしたきめの細かい教育指導の現場の構築が求められている。これに加えて、新任教員の教育力の向上も必要不可欠とされている。そこで、本プロジェクトでは、1)ティーチング・アシスタント (TA) 制度を再整備し、2) TAの教育、指導力向上のための教育プログラムを提供、3) TAの効果的な運用方法を確立するとともに、4) PFFP、および、5) 新規採用教職員、外国人教員を対象とした教育力向上のためのプログラムを整備し実施することを通じて、本学の教育力の底上げを目指す。

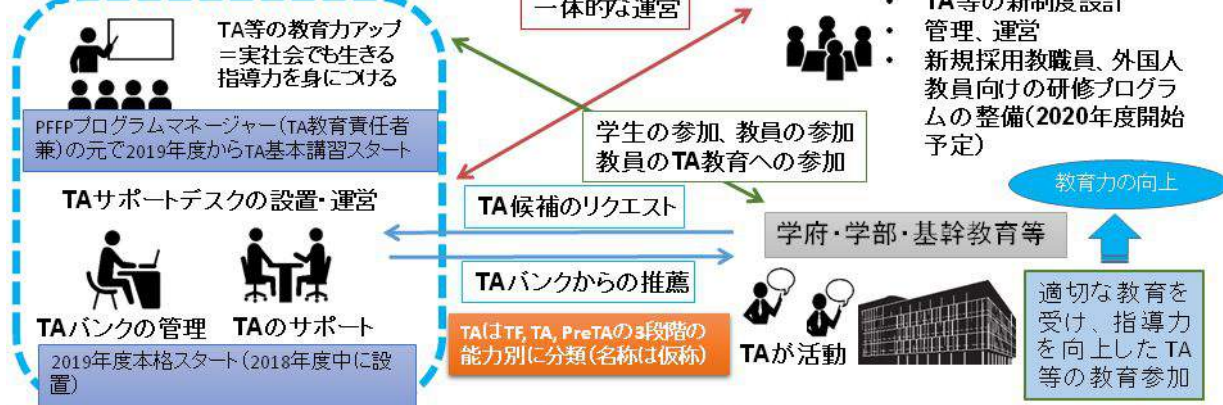
計 画 内 容

本学の実情に即した、TA教育プログラム(2019年度から)、および、PFFP、新任教職員研修(2020年度から)を実施する

TA教育プログラム、PFFPプログラムの開発と運営、
教材・マニュアル開発、新任者研修の運営

教育改革推進本部

- TA等の新制度設計
- 管理、運営
- 新規採用教職員、外国人教員向けの研修プログラムの整備(2020年度開始予定)



達成目標・期待される成果

達成目標: 1) 新TA制度およびTA教育(育成)プログラムの実施、2) 九大PFFPの確立と実施、3) 九州大学新任教員教育プログラムの実施
期待される成果: 1) 教育を受けた優れたTA等の教育現場への参加、および、新任教員の教育力の向上により本学の教育が充実、2) 教えることによる学びによりTA学生自身の成長、3) TAの参加により教員の教育研究時間を有効活用することが可能

新TA制度の主なポイント

- A. 3つのTA階層の導入
- B. 標準的な業務の明確化
- C. TA教育プログラムの提供
- D. 給与の見直し
- E. TAポータルを設置
- F. TAサポートデスクを設置

主な成果

- 1. TA教育プログラムの整備
- 2. 74名がPFFPを修了
- 3. 24名がTF活動を実施
- 4. 新任教員教育セミナーの実施
- 5. TAポータルの作成
- 6. TAハンドブックの作成と公開
- 7. 学会発表・論文発表
- 8. 広報媒体の作成
- 9. TAサポートデスクの設置
- 10. 学生・教員インタビューの実施
- 11. TAに関する座談会とFDの実施
- 12. TAアンケートの実施

①3階層のTAの確立と業務内容の明確化

②TA教育プログラム・PFFP

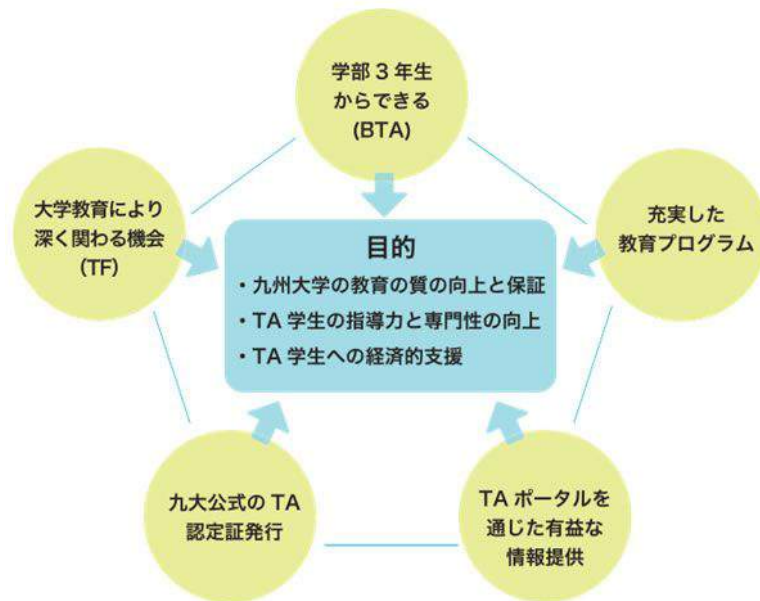
③成果物・成果の発信

⑤広報媒体

⑥調査報告

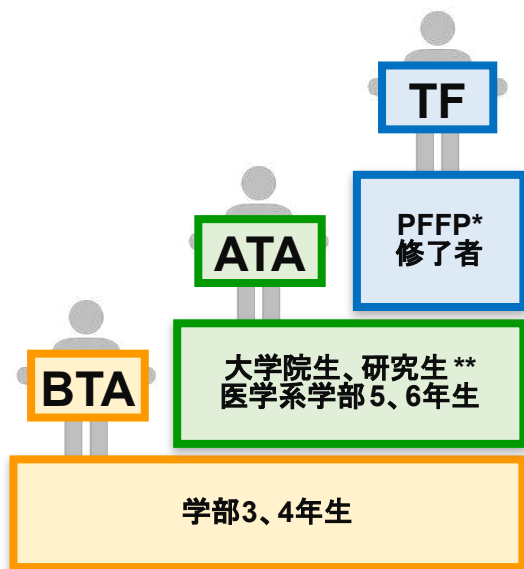
⑦イベント開催

⑧問い合わせ対応



①3つのTA階層の確立と業務内容の明確化

従来、TAといえば大学院生(下の図のATA)に限られていましたが、学部3年生からのTAを可能にし(BTA)、さらにもう一つ上のレベルのTAであるTFを設置しました。



TF

Teaching Fellow

- ATA資格を有し、PFFP*を修了した大学院生が対象
- 一部の授業の単独実施が可能

ATA

Advanced TA

- 大学院生、研究生、医学系学部5、6年生が対象
- 学習支援、修学支援

BTA

Basic TA

- 学部3・4年生が対象
- 低年次学生を対象とする学習支援・修学支援

①3つのTA階層の確立と業務内容の明確化

○資格保有者の推移

資格保有者数は、以下のように推移しています。
BTA資格保有者が一定数確認できます。



○標準的な業務内容

階層ごとの業務内容を明確化しました。
階層があがるごとに裁量が増えます。

勤務時間	階層			業務内容
	BT A	AT A	TF	
授業時間内	○	○	○	出欠管理
	○	○	○	教材印刷・配付
	○	○	○	実験・実習の指導補助
	○	○	○	PCなど教育機器の操作
		○	○	演習の指導補助
			○	試験監督補助*
授業時間外			○	一部の授業の単独実施**
	○	○	○	教材作成の補助**
	○	○	○	実験・実習の準備補助
	○	○	○	成績評価に含まれない課題・テストなどの採点補助**
		○	○	成績評価に含まれる課題・テストなどの採点補助**
		○	○	履修者からの質問の回答**
			○	教材原案の作成**
		○	レポート・課題の原案作成と採点**	

*正規の手続きが必要な業務

**教員の指導や監督がとりわけ必要な業務

②TA教育プログラム・PFFP

2021年3月時点で、TA教育プログラムとして14科目を公開しており、そのうち8科目は英語版も公開しています。これらの科目はMoodleで受講でき、教材と小テストで構成されています。それぞれのTA階層に必要な科目を修了するとTA資格を得ることができます。



○これまでに開講したTA教育プログラム

TA基本講習							
	教材No.	科目名	講義形式	言語対応	2019年～2022年2月24日までの修了者数	担当者	
1	安全教育 0	安全教育 (学生向け)	学生ハンドブック	日本語・英語	6483	基幹教育院 野原 健 教授	
2	TA基本講習 1	TA基本講習	PPT+機械音声	日本語・英語	6137	基幹教育院 野原 健 教授 教育改善推進本部 長沼 祥太郎 講師、鄭 漢模 特任助教	
アカデミックスキルズ講習							
	分類	教材No.	科目名	講義形式	言語対応	2019年～2022年2月24日までの修了者数	担当者
3	コア科目	2.1	学生とつながるために磨こう： M2Bシステム活用力	PPTのみ	日本語・英語	5687	基幹教育院 山田 政寛 准教授
4		2.2	指導力の基盤として学ぼう： 合理的配慮の提供	SCORM	日本語・英語	7311	インクルージョン支援推進室 鈴木 大輔 特任助教
5	推奨科目	3.1	野外活動補助のために学ぼう (自然科学系)： 安全な野外活動のルール	PPT+機械音声	日本語	434	農学研究院 大橋 恭一 教授
6		3.2	学外調査活動補助のために学ぼう： 適正な社会調査活動 (人文・社会科学系) のルール	動画	日本語	318	人間環境学研究院 飯嶋 秀治 准教授
7		3.3	実務活動補助のために学ぼう： 安全な実務活動のルール	PPT+機械音声	日本語	321	基幹教育院 野原 健 教授
8	一般科目	4.1	レポート指導のために確認しよう： 優れたレポートのポイント	動画	日本語	348	附属図書館 学術サポート課
9		4.2	グループ学習の運営のために学ぼう： ファシリテーション手法	動画	日本語	29	東京工業大学 田中 岳 教授
10		4.3	指導力の基盤として磨こう： 資料検索・情報収集能力	動画	日本語・英語	315	附属図書館 学術サポート課
11		4.4	エビデンスに基づく議論を構築するために磨こう： データ分析力	動画	日本語・英語	209	システム情報科学研究院 内田 基一 教授
12		4.5	発表指導のために確認しよう： 優れたプレゼンテーションのポイント	動画	日本語	282	附属図書館 学術サポート課
13		4.6	指導力の基盤として学ぼう： 学習科学(ヒトはいかに学ぶのか)の基礎	動画	日本語・英語	248	教育改善推進本部 長沼 祥太郎 講師
14		4.7	オンライン授業のために身につけよう： 実施方法からマナーまで	動画+PDF	日本語・英語	127	岡田 義広 教授 (システム情報科学研究院) 岡村 耕二 教授 (情報基盤研究開発センター) 島田 敬士 教授 (システム情報科学研究院) 田中 真理 教授 (基幹教育院)

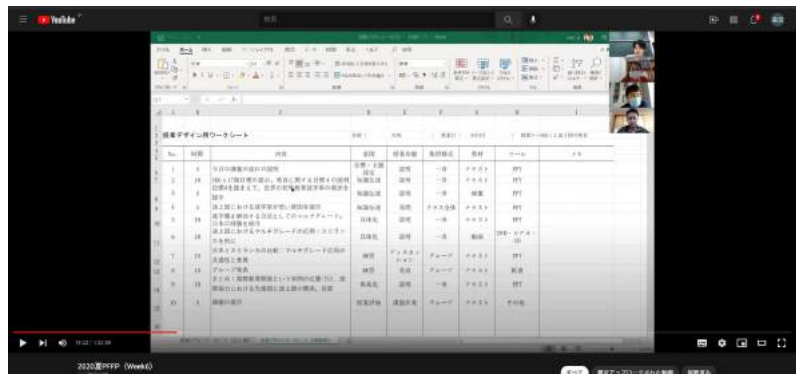
②TA教育プログラム・PFFP

PFFP

2020年度より、これまでに7度、大学院基幹教育科目「大学の授業をデザインする」としてPFFPを開講し、**74名が修了(うち留学生は33名)**しました。

内容例:

- マイクロティーチング
- 目標・評価(理論と実践)
- シラバス(理論と実践)
- 多様な授業方法の体験



TF活動

2020年度後期より、学内の **計41授業で24名(うち留学生9名)**がTFとして活動しました。

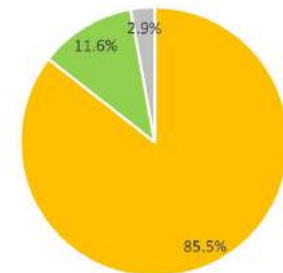


PFFPの満足度

以下のような受講生からのコメントが寄せられました。

医学系学 府保健学 専攻D3	<p>これまで「教える」ための具体的な理論や方法論など、教育の専門家から学んだことがなかったため、今回全体を通して学んだことは今後教員として講義をする際にとても役立つと感じ、この講義を受講できてよかったと思います。90分の講義が将来的に自分にできるようになるのはまだまだ不安ですが、受講前に比べると少しは不安が和らいだのでは...とも感じています。看護学分野の修士・博士課程の学生の多くは卒業後、大学教員になる人が多いのにも関わらず、「授業をデザインする」ことを学ぶ内容のカリキュラムはほぼ組み込まれていないので、ぜひ導入したほうが良いと感じました(教員の授業スキルを上げることは、学生の学習への興味や理解を高めることにつながると思うので)。また、先生方の授業の進め方や話し方、学生への対応(学生の話をしっかり傾聴する、いい点をほめた後に改善点を伝える、できるだけみんなが発言できるようにあてる、雰囲気づくり等...)も勉強になりました。他の学部の院生とのディスカッションも楽しく、とても新鮮で学びも多かったです。みんなすごいなと思いました。2コマ続きの長時間の講義が苦痛ではありませんでした。</p>
生物資源 環境科学 府M2	<p>この講義を受講しなければ、将来行き当たりばったりで授業をすることになっていたかと思うと恐ろしいです。まだ進路はわかりませんが、将来授業をすることがあったら、試行錯誤を積むことは前提として、今回の講義で得られたツールやヒントを使えたらと思います。あとはエビングハウスの忘却曲線に抗って、忘れ去らないように整理し、いつでも見返せるような状態で授業の記録を残しておこうと思います。</p> <p>授業の形態としてオンデマンドは初めてでしたが、自分のペースで見られるのですごく便利だなと思いました。ただ締め切りを忘れてしまったのでどうしたものかと思います。ここはこれからの自分自身の課題です。締め切り遅刻して本当にすみませんでした。</p> <p>いろいろな学部の方と出会う機会は学年が上がるにつれ減っていくので、そういう意味でも貴重な機会でした。ありがとうございました。</p>
地球社会 統合科学 府D3	<p>授業のシラバスや評価方法などは自分が受講生として見たことはあっても、実際に作成したことがなかったので、作成方法だけでなく理論までしっかりと学べてとても勉強になりました。</p> <p>他の受講生の模擬授業や作成物も共有してもらえて、参考になりました。授業をする予定や応募もまだですが、今の段階で受講できて良かったです。</p> <p>疑問や要望にすぐに応えていただけたので、モチベーションの維持や向上につながったと思います。他の受講生も積極的で熱心な方ばかりだったので、刺激を受けました。</p>
地球社会 統合科学 府D2	<p>今後授業を持つことがあったとして、不安しかないなと感じていたが、何を考えるべきか、実践すべきかがクリアになり、不安の多くが解消された。</p> <p>マイクロティーチングを始め、アウトプットしたことには細かいフィードバックがあり、とても勉強になった。授業を行う際は今後も見直しながら取り組みたい。</p> <p>逆向き設計で考えるという点については、まだまだできるという段階ではないため、最終課題を通して再度理解を深めていきたい。</p>

満足度(N=69)



■ 大満足している ■ 満足している ■ どちらとも言えない

新任教員教育セミナー

2021年4月、新任教員向けのセミナーを実施しました。



③成果物・成果の発信

TAハンドブック

TAハンドブック(日英)を作成しました。

<目次>

はじめに

1.九州大学ティーチング・アシスタント
(制度)

2.TAとしての手続き

3.TAとしての心がけ

4.TAとしての就業規則

5.TAになったなら

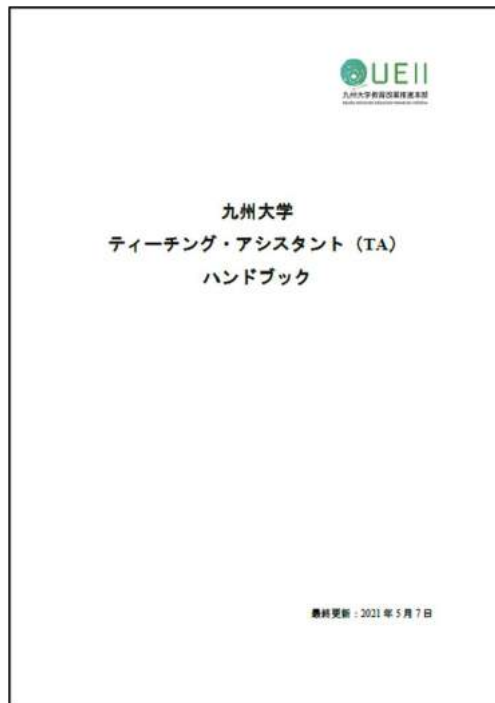
6.よくある質問(FAQ)

7.関連資料

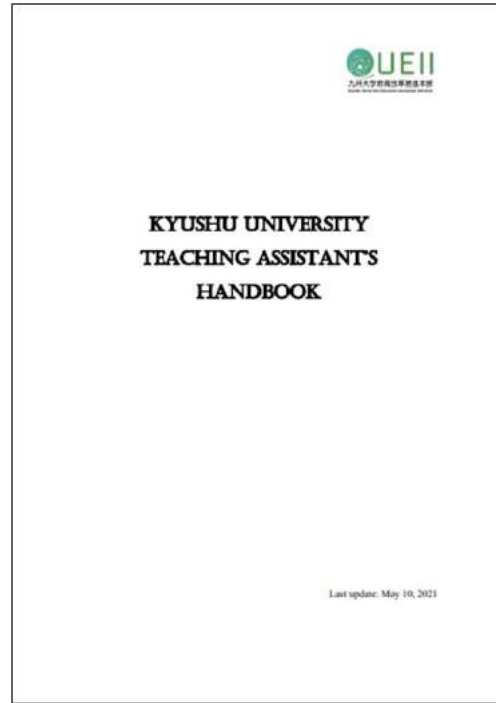
九州大学TAハンドブック:

https://ueii.kyushu-u.ac.jp/data/TA-Handbook_JA_20210507.pdf

日本語版



英語版



③成果物・成果の発信

TAポータル

TAに関する情報を一か所に集約した、ポータルサイトを作成しました。

九州大学TAポータル

日本語 English

TAハンドブック

完全版

ダイジェスト版

ガイダンス動画

学生向け

教員・職員向け

九州大学TA制度

学生の方へ

教員・職員の方へ

本サイトは、ティーチング・アシスタント（TA）として大学教育に関わりたい学生、TAを雇用したい教員のために、TAに関する情報を提供するものです。

学生



- ・TA募集情報・検索 >
- ・TA講習会情報 >
- ・TA情報登録・修正・認定証発行 >
- ・学生番号移行処理 >
- ・FAQ >

教員・職員



- ・TA検索 >
- ・TA募集情報・登録 >
- ・FAQ >

九州大学TAポータル: <https://ta-support.kyushu-u.ac.jp/>

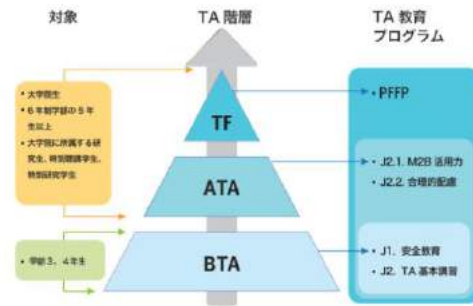
九州大学TA制度について

九州大学TA制度の魅力



3つの階層

各階層の活動内容は明確化し、教育効果が期待できる効果が提供されています。



学会発表

学会発表を**3件**行いました。

1. 長沼祥太郎(2022)九州大学におけるPFFPの概要と評価, 第28回大学教育研究フォーラム
2. 長沼祥太郎、鄭漢模、野瀬健、丸野俊一(2021)九州大学におけるティーチング・アシスタント(TA)制度改革・改善の取り組み—アンケート調査結果を踏まえて—, 大学教育学会
3. 鄭漢模・長沼祥太郎・野瀬健・丸野俊一(2020)九州大学におけるティーチング・アシスタント制度改革の取り組み—学生参加による大学教育の質向上に向けて—第26回大学教育研究フォーラム

於第28回大学教育研究フォーラム

九州大学におけるPFFPの概要と評価

2022/3/17

九州大学教育改革推進本部

講師 長沼祥太郎



九州大学におけるティーチング・アシスタント制度改革の取り組み ：学生参加による大学教育の質向上に向けて

・概要

1. 制度改革の背景と目的
2. 新TA制度の3つの特徴
3. 新TA制度の実施状況
4. まとめと課題

2020年3月18日
教育改革推進本部



論文

論文を**5本**発表しました。

1. 「日本の大学におけるTAの実態について」
2. 「魅力ある教育実践とは？そのためのTA養成やPFFPとは？」
3. 「九州大学におけるティーチングアシスタント制度改革」
4. 「大学教育のコースデザインにおける逆引き設計論の適用上の課題に関する一考察」
5. 「プレFD科目のマイクロティーチング用ルーブリックの開発」



④広報媒体

ポスター

2019年10月の新制度開始時には、
広く告知するために多言語での
広報ポスターの作成をしました。

日本語



英語



韓国語



中国語(简体字)



中国語(繁体字)



④広報媒体

三角ポップ

新制度開始当初は、学部生・大学院生・教職員に広く知っていただくために、食堂に下記のような三角ポップを置いて広報に努めました。



2019年度後期 新TA制度 はじまりました。
New TA System Takes Effect from the 2019 Fall Semester

新TA制度とは。
 TAとは「Teaching Assistant」の略で、授業サポート、学生相談、学習支援などの役割を担います。新TA制度では、教員と学生が一緒に学ぶ「九大の教える・学ぶ」を実現するために、新TA制度を導入します。

新TA制度のかわったこと。

新TA制度は、教員と学生が一緒に学ぶ「九大の教える・学ぶ」を実現するために、新TA制度を導入します。新TA制度は、教員と学生が一緒に学ぶ「九大の教える・学ぶ」を実現するために、新TA制度を導入します。

UEI 九州大学教育改善推進本部
 Kyushu University's New TA System

教員と学生が一緒に学ぶ 九大の教える・学ぶ 新TA制度 再確認
Promoting Student-Faculty Engagement: Kyushu University's New TA System

TA (Teaching Assistant) とは
 TAとは「Teaching Assistant」の略で、授業サポート、学生相談、学習支援などの役割を担います。新TA制度では、教員と学生が一緒に学ぶ「九大の教える・学ぶ」を実現するために、新TA制度を導入します。

TAのメリットを確認しよう

教員と学生が一緒に学ぶ「九大の教える・学ぶ」を実現するために、新TA制度を導入します。新TA制度は、教員と学生が一緒に学ぶ「九大の教える・学ぶ」を実現するために、新TA制度を導入します。

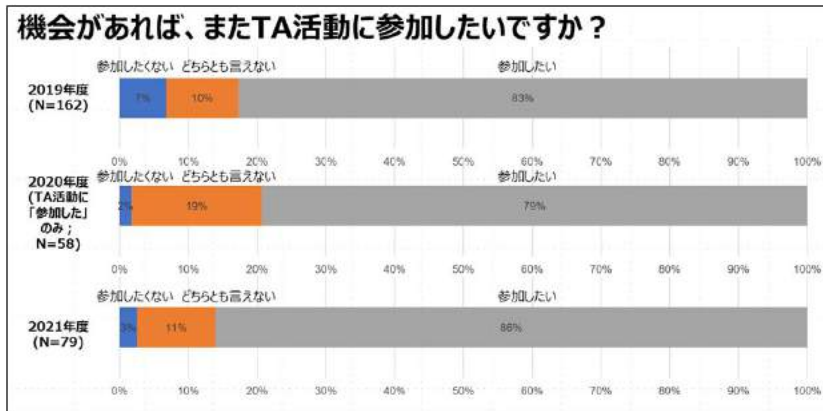
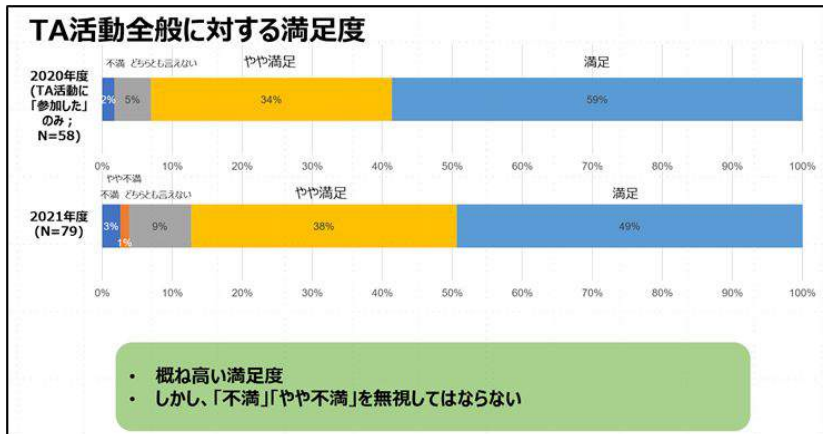
TAポータルとは
 九州大学TAポータルは、教員と学生が一緒に学ぶ「九大の教える・学ぶ」を実現するために、新TA制度を導入します。新TA制度は、教員と学生が一緒に学ぶ「九大の教える・学ぶ」を実現するために、新TA制度を導入します。

UEI 九州大学教育改善推進本部
 Kyushu University's New TA System

TAアンケート

これまでに3度、TAアンケートを実施しました。

- 各調査の実施期間：
2019年度～2021年度、合計3回
- 各年度の回答者数：
2019年度162人、2020年度71人、
2021年度79人
- TA活動に対する満足度は
2020年度93%、2021年度87%。
また、TA活動をしたいと答えた回答者の割合も2019
年度83%、2020年度79%、
2021年度86%
を示すなど、本学における新TA制度下のTA活動が
参加者から概ね高い満足を得ていることを確認できま
した。



TF・教員インタビュー

TFと担当教員にインタビューを実施し、記事にして公開しました。

- 従来のTAに比べてより積極的に教員の教育活動に関わることができるTFは、本学の教員及び学生にまだ馴染みのないものでした。そうした中で、本企画は、学内にTFの趣旨と意義を周知すべく、実際活動してみたTF、TFに教育活動を依頼した教員から率直な感想を聞かさせてもらい、それを記事化したものになります。
- 各記事はTFと教員の組み合わせからなっており、九州大学TAポータルの方でご覧いただけます。

TA・教員の声

インタビュー企画

九州大学では、2019年度後期から新しいTA（ティーチング・アシスタント）制度を開始しています。この企画では、新TA制度において新しく設けられた3つのTA階層の中でも、最も高い階層であるTF（ティーチング・フェロー）の活動について教員とTFにそれぞれインタビューを行い、紹介します。
TF活動をしてみたいけど不安を感じている学生のみならず、TFに具体的にどういった活動を依頼したら良いのが迷っている先生方ぜひともお読みください。

言語学・応用言語学演習X

- **TF** 教えることの楽しさを改めて感じる
タニエル・ギヤラカーさん（人文科学府）
- **教員** 指導学生に教育経験を与えたい
太田真理 先生（人文科学研究院 講師）

炉心理工学特論演習、高温プラズマ実験第一

- **TF** 大学教員になるための修行として積極的に教育経験を積む
品井霖さん（総合理工学府）
- **教員** 大学教員を目指す大学留学生に大学の教育経験を
花田和明 先生（応用力学研究所 教授）

課題協学科目

- **TF** PFFPで学んだことを生かした授業づくり
吉賀一成さん、大久保真利さん（理学府）
- **教員** 教員とTFの分担で、広がる可能性
大河内豊 先生（基幹教育院 准教授）

TAポータル>TA・教員の声
<https://ta-support.kyushu-u.ac.jp/voice>

TA座談会

TA制度に関しての声を拾うため、**座談会**を実施しました。

- 2022年2月15日、17日で開催
- PFFP修了生12名が参加し、TA制度に関して意見交換
- この座談会の様子は、一部TAポータル>TA・教員の声に公開
<https://ta-support.kyushu-u.ac.jp/voice>



今後の九州大学のTA制度に関しての学生からの意見

九大TAについて

- TA事例集の作成と公開：TAが業務内容を判断したり、参考にするため。事故とその対応、教材等。
- 実際の場面に沿ったMoodleの使い方講習：「テストの採点方法」「問題の作成」などをTA教育プログラムとして提供。
- 掲示板によるTAの周知：学部・学府ごとにオンライン掲示板を持っている場合もある。オフラインの掲示板（履修情報などと共に）も今でも有効。

TF・PFFPについて

- PFFPアドバンスの実施：TFとして活動した後、その活動を振り返り、意見交換をし、さらに学びを深める機会として。
- 単位認定の確認：PFFPが所属学府で要卒単位になっていれば、受講を後押しできる。
- ポータル上でのTF申請：ポータル上でTFの手続きを完了できるようにすることで、手続きの簡略化および確認の容易化に。

TAのFD

TAに関するFDを、2022年3月15日にオンラインで開催しました
(学内外から約50名が参加)。

はじめに ～九大のTA育成方針（背景）～

- 様々な分野において指導的な役割を果たすTAを養成
 - TA業務の丸投げやタダの紙配りが問題とされていた
- 教育補助業務の実施を可能とする、大学院生の教育トレーニングの機会を提供
 - TAになにを頼んで良いのかわからない(教員)
 - TAとして何をすればよいのかわからない(学生)
- 教育能力に応じた手当の支給と処遇改善
 - 伊都キャンパスの立地上、アルバイトを探すのが大変
 - アルバイト先が遠い、時給が安いとの声

【2019年度調査(N=94)】旧BTA制度に比べて新TA制度の主な変更点に対する反応
(複数回答可) (旧制度及び新制度両方知っている回答者のみ対象) (高い順)

Q1：階層化に対する反応

Q2：標準的な業務の明確化に対する反応

変更点	割合
時給の値上げ	86%
TAが教育活動に関わることを推奨	36%
TAの業務内容が明確化	35%
BTAとしてTA活動が可能(学部生)	29%
TA教育プログラムの提供	28%
TAポータル上においてTA募集情報の検索が可能	24%
ITハンドブックの提供	17%
TFとして授業の一部が担当可能(大学院生)	17%
TAサポートデスクのサポート	12%
満足した変更点はない	5%
その他	1%

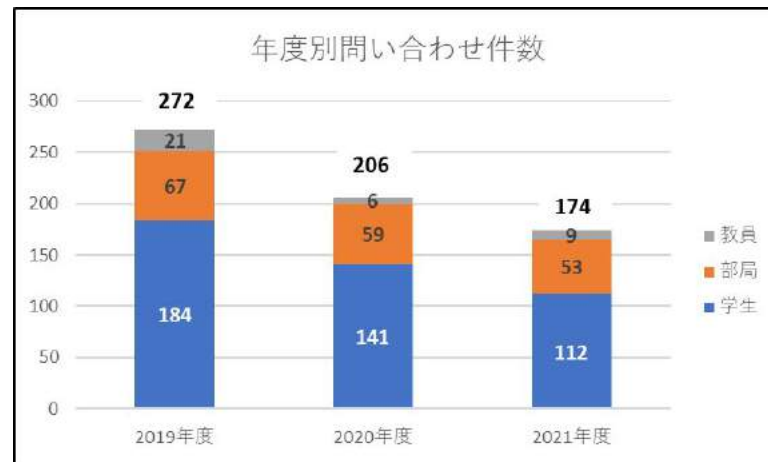
TAサポートデスク

TAサポートデスクでは、TA制度・TA活動に関する問い合わせに対応してきました。

問合せキーワードNo.1

	2019年度	2020年度	2021年度
学生	データ反映	制度	データ反映
部局	認定日	制度	制度
教員	認定証発行	認定証発行	制度

制度やデータ反映に関する質問が多く寄せられました。



FAQに回答を載せるなどにより、2年で問い合わせ件数は40%以上減少しました。

謝辞

本プロジェクト実施に関わってくださった学外協力者のみなさまに感謝申し上げます。

問い合わせ

本報告書に関してのご質問等は、以下までお願いします。

TAサポートデスク: ta@ueii.kyushu-u.ac.jp